

■エッセイ

私と神戸 ①

笑う街

軒上 泊

絵／灘本唯人
△作家▽

た地図はそこらの溝に漬ければすぐに色あせていたのだ。

そのせいでもないが、ごく数人の者と酒を飲む以外はほとんど一人で神戸の街をうろついていた。じつさい、あてもなくうろつくには神戸は手頃な街だといえた。ちょいと歩けば波止場のあたりで潮風にあたることもできたし、気が向けば「港めぐり」のちゃんな船に乗り込んで海のほうから街を眺めることもできた。

ほかが部屋を借りていたのは須磨区の板宿町だった。部屋にいる時はいつも誰かの著作を広げ、親しみを覚えていた作家の世界をさまよったり、有能な哲学者のあみだした論理を追跡したりしていた。みんな誰かを、何かを探して生きているのがヒト科の習性だ、などとは言うまい。だが、その頃のぼくにとっては何も探していない日は一日としてなかったはずだ。

そして、すくなくともぼくにとって神戸は「べっぴんの町」でもあった。一七歳のランボー氏が

もちろん軒上泊は偽りのなまえにすぎない。神戸に住みついていては親からいだいた名前でも巷をうろついていた。頭は丸坊主同然の短髪で、身なりは米軍の下っ端兵士が小遣い銭に困ってガールド下で叩き売った中古のアーミーだった。その頃のぼくは、昼間はプロレタリア階級として日銭を稼ぎ、夜は大学の教室で勤労学生たちに混じって退屈な講義を拝聴していた。時代は一九七〇年前後で、ブランド物のイデオロギーが飛び交い、人間を右か左かの二色刷りで色分けするのが流行っていたご時世だった。ぼくはたいてい右のほうの色あい染まっているものとおもわれていた。だが、そんなことは思想的にはたいした問題ではなかった。ごくたまに元気のいいのがいて、左のほうから議論をふっかけてきた時は右ストリートで対処できたし、右のほうからよった論理を浴びせてくれば左クロスで制圧しえた。おれは右だ左だと声高にのたもうても、どいつもこいつもしょせんはその程度の効き腕だった。彼らが色分けし

二度目の家出をなさったさいにのたもつたフレイズ——目元涼しく、乳房のやけにでかい別嬪——そのての女性と接触のドラマをこなしたこともあるし、目元に温もりをたたえた華奢な身体つきの女性と交感のドラマを共有したこともあった。

彼女たちとの出会いはさまざまだった。市役所の廊下で仄かに火照った視線を投げ合ったケースもあれば、歓楽街のおそまつなバーで何とはなし



に心がざわめき、そのまま二人で深夜の街角に立ってざわめく心を言葉に変えたケースもあった。だが、いずれの女性たちも、一陣の魅惑的な風のように心を吹きぬけていったといえ、彼女たちは眉をひそめるだろうか。じっさい、その頃のぼくは、頭の風通しを良くするために遍歴を重ねていたようなものだったし、彼女たちもこちらの身勝手を知りながら、手頃な風力で男と女の世界を波立たせているかに思えた。おそらく、あの時代はそんな日々しか送れはしなかったのだ。ぼくはそういう資質の若僧だったし、いつも自分にいちばん興味をいだいていたのに、毎日の思索の要所々に別の自分が重たく立ちふさがっていたのだ。

そして……。

歳月の流れは時として過剰な甘味を添加して過去を甦らせる。今夜もそういう夜のうちのひとつだ。あれから二〇年の年月が過ぎたと思えば、はたち過ぎの自分が神戸の街のどこかで、こちらを眺めてケラケラと笑っているかのように。今ではまるで、街そのものが笑っているかのように、その声ばかりがうるさい。



△筆者紹介▽

昭和23年兵庫県生。神戸大学経営学部第二課程卒。少年院法務教官等の職業を経て、「九月の町」(第50回オール読物新人賞)でデビュー。代表作に、神戸を舞台とした「アマチュア・オブ・シリーズ」、「ベッピンの町」、「ディセンバ13」、「またふたたびの冬」等がある。

□随想□

谷崎潤一郎の和歌と神戸

市居義彬〈谷崎文学研究家〉

私は二月初め、「谷崎潤一郎和歌集」を出版した。潤一郎が学生時代から晩年に至るまでに詠んだ和歌の総集編に、私が解説を付したものである。谷崎に関する本を作ったのは昭和五十八年の「谷崎潤一郎の阪神時代」以来七年ぶりになる。

前著を綴っていく過程で、私は潤一郎がすばらしい和歌を数多く詠んでいることを知り、それぞれの歌に深く魅せられた。とりわけ、潤一郎が阪神間で転居を繰返した大正末期から終戦までの時期に詠んだ歌については、それらの背景にも興味を覚えた。

関東大震災後、潤一郎が千代夫人や長女鮎子らと京都を経て阪神間に移り住んだ最初の地は、武庫郡大社村（現西宮市）苦楽園である。その後の七年余に、同郡本山村（現東灘区）内で四力所も転居した間には、千代夫人を彼女に同情する佐藤春夫へ譲渡（鮎子も共に）するなど家庭環境は激変し、「夢喰ふ蟲」などの作品や和歌の類いにも、そうした事情を投影したものが多く。その中に次のような一首がある。

われは山荘に妻は好文園に住みける頃
あき風に草木も人もかれかれて

ここごろごろの日を侘ぶるかな

山荘は岡本梅ノ谷に間借りしていた大きな農家の

こと、妻は千代夫人、好文園とは梅ノ谷の麓にあった伊藤萬治郎氏経営の賃貸住宅地で現在の岡本七丁目一帯にあった。

梅ノ谷の四百坪もあった農家を買った潤一郎は、風変わりな別棟を自ら設計して建築した（今も残っている）。しかし、印税と負債に追われて家財を手離しガランドウになった家の中で、潤一郎は二十歳以上も若い古川丁未子と結婚式を挙げた。ところがすでに、船場の綿布問屋・根津商店主の夫人であった松子と運命的な出会いをしていたのである。

新妻丁未子と高野山に約半年滞在した後、夫妻は根津松子夫人の世話で、河内孔舎衛村の根津商店寮を経て、夙川の根津別荘離れに落ち着いた。そこが「倚松庵」と呼んだ最初である。松に倚る庵とは意味深長ではないか。母屋には根津家が大阪から移って来ていた。

昭和七年、潤一郎夫妻は魚崎町横屋で二度転居し、その隣家へ根津家も引越して来た。これは決して偶然ではなかった。その借家には目立つような松の木は無かったものの、やはり倚松庵と呼んだ。この家で潤一郎は根津松子夫人に愛情をはっきり告白した。この家で詠んだ「倚松庵十首」には次のような二首がある。

すみよしのつゝみのまつよこゝろあらは
うきよのちりをよそにへたてよ

けふよりはまつのかかけをたゝたのむ

みはしたくさのよもきなりけり

その年の暮、丁未子と別居した潤一郎は、再び
本山村の保久良山麓へ引越し、その二度目の借家
では根津松子夫人が訪れては泊って帰るようにな
っていた。同九年春、精道村（現芦屋市）打出下
宮塚の古めかしい家へ移った潤一郎は、根津姓か
ら旧姓森田に復帰した松子と晴れて結婚式を挙げ
た。松子夫人の二人の妹も一緒に暮らしたが、潤
一郎の日常は下僕のような態度で一貫した。

昭和十一年十一月に住吉村反高林（現住吉東町
一丁目）へ転居した。この家には珍しく七年間も
住み、「源氏物語現代語訳」を完成したのち、「細

雪」の執筆にとりかかった。戦時色が強まってき
た十九年四月、住吉川畔の魚崎の家から熱海へ疎
開するため、家族と共に省線（現JR）住吉駅を
発つ際、潤一郎は見送りの人に色紙を頼まれて次
の歌を詠んだ。

故里の花に心を残しつゝ

たつやかすみの菟原住吉

この歌碑を昭和六十年四月に、「谷崎潤一郎の
歌碑を建てる会」の皆さんのご協力により、住吉
駅近くの阿弥陀寺門前に建立できた。

さて話を昭和二十年に戻すと、五月に熱海から
再疎開のため津山へ向かう途中、魚崎の家に立寄
り数日滞在中、青木の川西航空機工場への空襲に
遭った。そして、津山にいて留守中の魚崎の家は
八月六日払曉の空襲で全焼した。

草枕旅寝の床にしのおかな

焼野が原のふるさとの月

かくて、潤一郎らは二度と阪
神の地に戻ることはなかった。

あれほど愛した土地なのに。

「谷崎潤一郎と歌集」はジュンク堂・海文
堂・岡本甲南堂・住吉光文堂・芦屋宝盛館
・風川書店・旭屋・阪急百貨店・紀伊國屋
各書店で発売中



谷崎潤一郎歌碑除幕式（85.4.13 常住山阿弥陀寺にて）



□ トランペット片手にブラジル一人歩き△23▽

ペチャンコにされた トランペット

絵と文 右近 雅夫 △在ブラジル・サンパウロ▽

僕がブラジルへ移住して来た当時、サンパウロにはジャズの演奏を聞かせる様なライヴハウスが殆んど無かったので、デキシーを演奏するバンドと云えば僕等のグループしか無かったのである。其れが最近、政府が生演奏を聞かせる店には税金の特典を与える様になり、ジャズの生演奏を聞かせる店が増え、需要と供給の関係で、バンドの方もプロ、アマチュアのグループを取り混ぜ沢山出来た。

僕等が出演して居る「OPUS 2004」は最近コンソラソン街からパンブローナ通りへと移ったが、サンパウロのライヴ・ハウスの中では最も歴史が古く有名である。僕等の「São Paulo Dixieland Band」は何時も金曜日の夜に出演して居るが、土曜日の晩は「Traditional Jazz Band」が出演して居る。此のバンドはクラリネット奏者の Albetito が始めたニューオルリンズ・スタイルのバンドだが最近プロに転向し、多くのLPを吹き込んだので僕等のグループより有名に成ってしまった。トラディショナル・ジャズ・バンドのトランペット奏者、Robert は大変優秀なトランペット奏者だが、僕は彼が未だ学生バンドでトランペットを始めた頃からのアミゴだ。彼はサンパウロの名門の出で、商工大臣を務めた事のある叔父が居る関係か本職は弁護士だが連邦貯蓄金庫

の重要なポストについて居る。亡くなった父親がイタリア系のアメリカ人だと云う彼は一寸「Old」のジョン・コーネリーに似たハンサムな男で、もうかれこれ二十年以上になると思うが彼の結婚式に招かれて行った時の事を未だに思い出す。花嫁はナタリー・ウッドをうんと小柄にした様な良家の出の美人で豪華なフエスタだった。ロバートはとてもお人良しで会うと笑い話を語って人を笑わせる愉快な男なのだが唯一の欠点は「女たらし」で、其れが為、結婚後数年もするとアリセ夫人との間で何時も夫婦喧嘩が絶えなかった様だ。

オプスには他のバンドのミュージシャンが現れ一緒にジャム・セッションをやる事があるが、ロバートも僕等が演奏して居る時にしばしば現れては飛び入りで演奏する事がある。

或る日、新しい楽器を持って現れた彼が、
「マサラ、試して見ないか?」

と云って彼の楽器を差し出したので、僕等はお互いの楽器を取り替わり、「Strutting with some baroque」の前奏を二重奏で吹き始めた。熱に乗った僕等は三コーラスも掛け合いのソロをし、演奏し終えたと聴衆の拍手を浴びお互いの肩を叩き合って握手をした。僕はロバートの「Bach Stradivarius」の銀製のホルネット

Adeus,
meu piston!



にすっかり魅せられてしまい、社用で何時も北米に出張するフェルナンドに頼んでロバートのと同じバックの銀製のコルネットを買って来てもらった。

「今度一緒に演奏する時には二本のバック・ストラディヴァリウスで共演しようや。」

と彼に約束したのだが、其れから数カ月過ぎた或る日、オンボロの古いコルネットを持ったロバートがオプスに現れた。

「あの新しい楽器は一体どうしたんだ?」

と尋ねた僕に彼は一寸ていさい悪そうに話し出した。

オプスで知り合った女の子と浮気をし、夜明け方に帰宅した彼は翌朝何事も無かった様に装って居た。

アリセ夫人が、

「如何して昨夜はあんなに遅くなったの?」

と朝のカフェの時に何気無く尋ねたので、

「シヨウの後で録音が有り夜明け方迄かかったのさ。」

と突差に答えたロバートに夫人がニヤリと笑うと女中を呼び、彼が風呂場に脱ぎ捨ててあった口紅の付いたワイシャツを持って来させた。

其の夜、彼が再び夜遅く家に帰って来ると、玄関の床

の上に踏みつけてべちゃんこにされた彼の新品の楽器がころがって居た。

命から二番目に大切な楽器をべちゃんこにされ、其の時は大変なショックだったろうと思うが、其れでも彼の「女たらし」の病氣は治らなかつた。暫らくすると彼は新しい彼女と二人でオプスへ「お忍び」で現れる様になつた。

丁度ステージの休憩時間で僕等がバルで一杯やって居た時、ドアーマンのバルビーノが血相をかえて駆け込んで来た。

「大変だノロバートの嫁さんがやって来た。」と云うのである。

何時もは男性的で堂々としたロバートだが、其の時の彼の狼狽振りは全く滑稽であつた。

彼は顔面蒼白となり男性用の便所に逃げ込み中から錠をおろしてしまつた。アリセ夫人は其処から中主人の姿を探して居たが男性用便所の中迄調べるわけにはいかず、小さな子供が三人も居るのに主人が浮気をして困ると僕等にこぼし乍ら暫くすると帰ってしまつた。

僕は目じりの皺を隠す為少し厚化粧をしたアリセ夫人の横顔を眺め乍ら、お姫さんの様だった彼女の花嫁姿を思い出し随分苦労して居るんだなあ、可哀そうに思つた。

二人は其れから暫くして離婚してしまつた。



最新作イルカライブ
青い地球・イルカたちの旅
 イルカたちの躍動が私たちに勇気を与える。

絶 賛 上 演 中 !



神戸市立
須磨



海浜水族園

TEL.(078)731-7301

入園時間:9:00~16:00 休園:水曜日(祝日は開園)

◆交通: JR・山電「須磨」より市バス66系統「須磨水族園」下車
 JR「廣取」南西へ徒歩20分 山電「月見山」南へ徒歩15分

KIRIN

うまいことは
 わかってた。

ビールは、搾ってつくります。
 その最初搾った麦汁のことを
 一番搾りといいます。それが、ビールになりました。

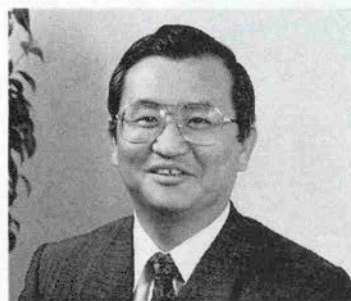
キリン一番搾り(生)ビール。

新発売です。

……は、新しいビールが、つくれない……

価格は普通のビールと同じです。未成年者の飲酒は法律で禁じられています。キリンビール株式会社





青木 幸夫 代表取締役

★これからの商業不動産は—— 特定街区の民活による実現を

青木 幸夫
△株式会社エルアイシー代表取締役△

●高層化が続く

街にはその用途の特性上、特定街区という制度によって建てられた建物があります。主として再開発事業のビル・行政官庁ビルに多いようです。前に容積率について述べましたが、そのためには特定街区を考える必要があります。

相続等を含めて、個人でも法人でも土地を売りたいくない人・会社はまだ多いのですが、建ぺい率、容積率を見直すことによって高層化せざるを得ないと思います。建築をする上で、斜線制限・日影規制等の様々な規制がありますが、商業ゾーンにおいては考え直さねばなりません。また再開発事業は行政がやっていますが、将来

に亘る建物ですから民間企業が集って行い、土地を活かして建てるのが大切になってまいりました

●特定街区を認めてほしい

商業地域は土地代も高くなって何をしても合わない昨今ですが、日本が伸びていくために大切な土地です。その土地を活かす（建物を建てる）ことも20坪、30坪では仕方ありません。ブロック単位の地域が作られなければなりません。

そこでまず全ての所有者が集って法人体を作り、各々が区分所有権を持ちます。そしてその中から収益を給与として取るわけです。

その計画が出た時に、行政から特定街区として認めてもらえればいいと思います。

日本では土地の80%が限度で、高層化されていますが、ほんの一部です。税制の問題も考えねばなりません。売りたいくない人がどうすれば売らずに活用できるか公共収用の考え方が必要です。ビッグプロジェクトを行おうとすれば何年もかかります。したがって民間デベロッパーの知識・知恵・力が必要となります。

●力を結集して実現へ

行政、税対策、金融機関の協力、そしてデベロッパーの力を結集して推進していけば道は開けます。それによって近い将来、神戸・大阪にも300～1000坪の土地を活かした30F、40Fの建物が出来ます。人が集まるから街も賑わいます。私はこの事業を地主と民間の活力ある会社で行っていったら良いと考えています。

地主さんは各々が利益を得、安定し、土地も売らずに済むといった具合に全てが上手く回っていきます。もちろん行政収入もです。

従来は何千万、1億とは言いませんでしたが、今は平気で口にする時代となりました。特定街区を認めてもらえればデベロッパーも出てくるし、地主さん達も名乗りを上げるでしょう。それを民間にも適用し認知していくのは国・行政の責任だと思います。

□株式会社エルアイシー

神戸市中央区港島中町6丁目9番地の1
ポートアイランド国際交流会館8F

(078) 302-4009

'90 Kobe

Fashion 特集1

100人 '90年代の神戸ファッションを 創るクリエイター(婦人服の部)

出会いと創造の芽の 人づくりを目指して

神戸が、ファッションタウン宣言をしてから17年が経ち、90年代という新しいサイクルに入りました。新しい時代を担うクリエイターたちの選考の前に、新しい人たちを育ててゆくための提言と、それぞれの立場からの意見を伺いました。

(上) 福 富 芳 美

(学) 福富学園学長

(左上) 川 上 勉

神戸オールスタイル会長

(左) 荒 津 正 美

神戸港ドレス代表取締役

——ファッション都市になったのも神戸の街だからこそと言えますが、なぜ神戸なのか、その辺りからお話を伺います。

川上 まず環境が素晴らしい。

芹澤 山があり海があるこの環境は、日本でもあまりないです。

藤本 地方では、山や海はありますが、都会でこの地形を持つ都市は他に無いのですよね。

荒津 世界でも無いそうですよ。

港が扇の形に広がり、瀬戸内の穏



芹澤豊男

関セリザワ代表取締役社長

い、と嘆いていました。神戸は、うで都市づくりが考えられていない、と嘆いていました。神戸は、

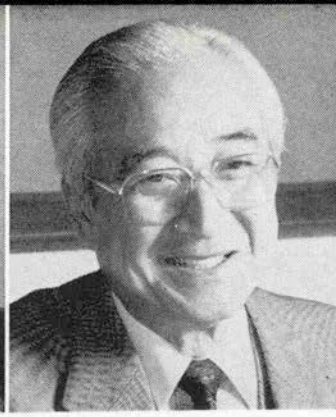


藤本ハルミ

クチュールマーガレットオーナー

荒津 全国に埋立地は多く在りますが、「ポートアイランド」などという呼び名を付けている地は他にないですね。

川上 大阪の人が言うには、南港とポートアイランドの違いが、大



松谷富士男

関ベニヤ代表取締役

往き帰りに海や街がキラキラとして、別世界へ導かれるような気にさせられます。あちらで仕事をするまで、そんなには思いませんでしたが、非常に恵まれていますね。



中西省吾

関サロン・デ・モード中西

福富 ヨーロッパの風情なのですかね。そもそも入って来たのもイギリス人などヨーロッパですし。松谷 東京の人は、神戸を公園の中に街が在ると言いますよ。

川上 そう。ポートアイランドにファッショントウンを造る時「街の中に公園が在るのでなく、美しい公園の中にセンスに富んだ文化の創造をリードするものを生み出す街を造りたい」という発言がありました。ポートアイランドは、

外国船を眺めて行くと、蘇鉄並木が在り、センスが良いですと。福富 大阪でライカが素晴らしいビルを建てたのですが、周りの環境が気の毒と言いたくなる状況ですね。

松谷 神戸はコンセプトがありますから。さんちかでも厳しく統制を執ったから、スッキリした良い地下街になっています。きめ細やかなのですよ。

荒津 山から見ても、海から見てもきれいですもの。

川上 東京幕張メッセも味気ない感じがしましたが、横にファッションビジネスガーデンを造ると聞いて、これはなかなか良いなと思いました。

藤本 東京の人は、神戸は建物も揃って気持ちが良いと言います。

私たちが見ると、北野など新しい建物が増えたなあと思うのですが、雰囲気はチグハグでなく、街並が整っているのでしょうか。

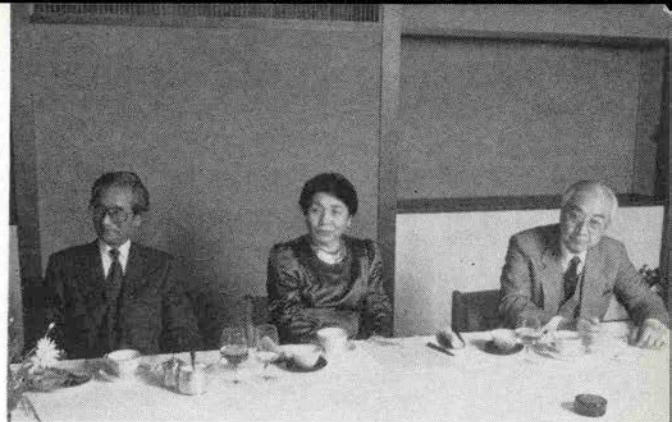
川上 算盤ではなく、おしゃれな神戸っ子を感じるのでしょうか。

藤本 男性も神戸の方はおしゃれですね。

★神戸に縫製研究所を

——環境が文化を生み出して来るということでしょうか。それでは、神戸のファッション界についてお話を伺います。

荒津 私は、KFS（神戸ファッ



シヨンソサエティ)で、企業に属さない人たちが集まって活動をしています。今年15周年を迎えましたが、活動の中で常々思うのは、企業の中に居る優秀な人たちもっと名前を出してほしいということです。去年、WFFで四人のクリエーターのファッションショーを見ましたが、よかったなあと思います。企業に居ても、神戸のデザイナー、コーディネーターという形で、もっと出て来たらいいと思います。我々も個人で活躍する方たちと切磋琢磨して、勉強を続けてゆきますし。神戸は「K・F(神戸ファッション)」と名の付く団体が沢山あるので、お互い協力

し合い高めてゆければと思っています。

福富 私は教育者の立場ですが、近頃は若い人が育ちませんね。

荒津 そうです。私も国の法人で兵庫県洋裁職業訓練協会会長をして、人づくりをしながら思うのですが、神戸は土台をつくる人が育ち難いのが現状です。洋服の仕立て発祥の地の横浜を越えて発展を遂げ、アパレルなどは神戸が一番と言われますが、消費者のニーズに答えられる人が少なくなっています。年一回技能師大会の時、県代表で労働省の人たちとの懇談会に出るのですが、資格だけでなくその後の評価をもして、育ててゆかなければと話が出ました。日本人独特の繊細さを持ち、そんな物作りをする為には、技術を育てること、そしてスポットを当てることが非常に大切な事だということです。

藤本 どうすれば良いのかしら。

荒津 仕事が好きなのはいいじゃない居るのですが、収入が伴わないとか、いろいろなことがあります。

学校でも生徒はデザイナーやパタンナーを目指す人が多いと思います。ドイツのマイスター制度は素晴らしいと言いますが、日本でも似た徒弟制度があったのです。

が、時代と共に排除されて来た訳ですよ。ですから、新しい形で職

人的な部分に陽を当ててゆかないと、技術者は無くなって来ますよ。

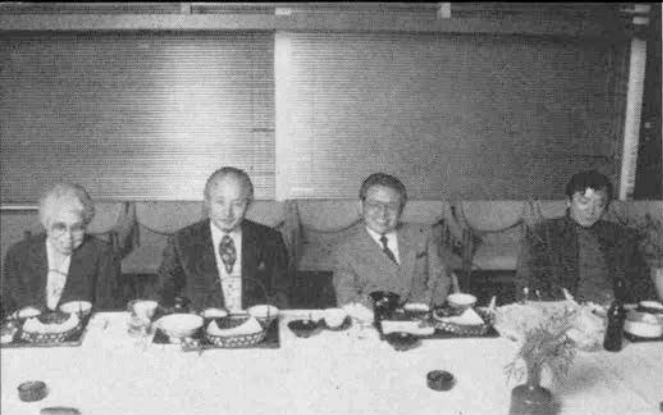
福富 職人というのは素晴らしいものだと思えますよ。でも呼び名がよくないのですよ。

荒津 そう、国も古い部分があり「技能師」や「何とか師」という呼び方をしますから。製図製作者もパタンナーと言えば皆分かるんですがね。

福富 どこ省でも同じなのでしょうが、文部省もお堅いですよ。大学の名前でもカタカナがいけないと言われましたし。職人という呼び名を変えたらいいのですよ。

川上 名前は大切ですね。免許の名称ももっと格好の良い名を付けたら受け取り方も違いますから。福富 好きな人も居るのであります。でも、今の若い人たちは自分が好きかどうかを試す場が無いのです。家政とか被服科のある高校は数える程しかないし、その位置

も他の学問が出来ないからというような立場に置かれています。私たちの時代は、嫌でもお裁縫の時間があり、皆針を持った経験をして来ました。今の人は知る道すらないのです。それと、私共の学校を出ても先の道があればこそなんです。良い条件の所が少ないのですね。大企業は下請から下請へですもの。裾の方へ皆皺寄せが行き、それも大きな問題だと思います



ね。フランスなど、良い仕事をする人やブレタボルテは個人の家庭作業でしている所もあるのです。

芹澤 パリでは、クラフトマンシップを大切にしたいいいものがあります。日本の場合、経済観念が働きます。日本にいいものが育ちにくいのじゃないかなと思います。

福富 企業が自分の所で自家工場を造るようになれば、と思うのですがね。雇う側も、不用だからとすぐ切ったりしますでしょ。そんなでは、学ぶ方もしたくなくなってしまうもの。

中西 認識が足りないですね。でも収入の面は、出来る人は高給でも雇うようになっていきますから。

技術は修練が必要ですから、勉強時間がいるものです。

川上 神戸芸術工科大学は、壁を取り払って出来るだけフレキシブルに、多くの分野に渡り知識と技術を深めてゆきたいのだと燃えていましたよ。

藤本 神戸女子大学が、CADを導入、コンピュータでデザインをするという、新分野を開拓。

福富 芹屋の田中千代学園も人材を育てています。地域外なので今回の対象から外れますが、学校側はやる気充分なんです。F I T

なども施設を整えていますし、パターンをするなら一年間そればかりを勉強する形なので、専門性が出て来るし、専門学校と言った方が

が良いと思います。大学と名を付けると、文部省が学課単位を問題にするので、専門分野の教育をし

難いということです。それと、今の人は辛抱が足りないですね。

藤本 洋裁だけでなく総てにね。福富 建築など、今や自分の設計

が気に入らないなら他へ行ってくれと言いますが、洋服でもそうなるべきですよ。ただそこまでなるのは大変なことですが。

藤本 ハンドメイドは、これから先稀少価値になってゆきますよ。

逆にそれが良いと言われるようにもなりますでしょう。

福富 それらのプライドを持った

集団の芽が神戸で出来たら、全国でもアツと言われ、神戸はさすがだと見られますよ。卵は沢山居ますから、私はいくらでもお手伝いしたいですね。

荒津 六甲アイランドにアパレル集団が出来た時、ファッション協

議会で重兼さんが「立派なアパレルが出来たのだから神戸に縫製研究所のようなものを造って、神戸ではこんなものが出来るのだ、ということをするべきだ」と言っていました。特徴を打ち出して行くことが必要だと言っていました。

福富 特色を出すことは本当に必要ですね。これからそれに向かってがんばってゆくことですよ。

★100人を選ぶ

——これぞ神戸というものを作って行く為に、教育する側も受ける側も、そしてその後を受け入れる企業、行政にもがんばってもらわねばならない様ですね。では、私共が事前にファッション業界の企業、個人、学校等、様々の方にアンケートをお願いして、神戸のクリエーター約100人を推薦していただいています。それを基にお話を進めていただきます。

川上 私は、神戸ファッションの基を語る上に文化的な面で、新谷先生とかも考えていたのですが、やはり、ここはファッション界に的を絞った方が良いでしょう。

福富 それと、私たちの名前まで挙げていただいています。年齢や現役か否かということを基準に持って来た方が良いでしょう。

川上 そうですね。私などももう育てる側に回っていますから。

芹澤 うん。やはり出て来て欲しいのはフレッシュな人たちです。

中西 僕も若いこれからの人に焦点を当てて紹介することが良いと思いますね。

荒津 では、指導的立場の人は遠慮してもらうことにして、後続の人としましょう。

福富 ファッションとひと括りにすると分かり難いですね。

荒津 経営に携わっている人はビジネス、デザイナー等をクリエイターとしましょう。

中西 米谷さんとか教育に携わる人はマスターに。神戸芸術工科大学の名がありますが、やはり人物を挙げることにしましょう。

藤本 植村孝一（MAC）や中村元明（メンズハウスグループ）が推薦されていますが、メンズと一緒にすると数が多くなります。とりあえず今回は婦人服の部ということで紹介をしましょう。

川上 それなら、子供服の岡崎晴彦、坂野淳子（ファミリア）、堂脇佐津利、藤田美樹（エルミー）それから、西山明代（ビーズアクセサリーデザイナー）や星野純子

（金星工芸）、米田博司（市立身神障害福祉センター）も別項でということですね。

★新人へのフォローを！

——推薦、選考された100人は、後のページで顔写真と共に本人のコメントをご紹介しています。

藤本 皆さんそれぞれ活躍されていますが、全体的にレベルは高いのに層が薄いので力が出ないと感じます。専門店がもっと増えて厚みを持つと力がついて来るのではないのでしょうか。新しい人達にもっとライトを当てて、当てられる事で自覚も出て来るでしょう。その人達の交流も是非してほしい。話せばお互い役に立つことがあるかも知れない。交流を持つ事で随分違って来ると思いますね。

川上 アイデアは出会いからですから。創造が何倍にもなります。

中西 私は、今まで神戸で人材が育たなかったのは、その後のフォローが足りなかったからだと思います。内輪の乗りだけでなく、行政も加わって權威付けのような形を作ってゆく事も必要じゃないですか。川上会長のKFAなどが大きくなくてイメージアップを図っていたと思いますが、やはり大阪・東京にいる方がとか、知名度がパロメーターと言われる部分がありますのでね。デザインコンテストでも優勝者に対して、後放り

っぱなしですよ。せっかくお金掛けて大きな会をしているのに。パイプ付けをして有効な人材を生かす手立てを作ってゆかなければ。

松谷 これからは、神戸ファッション推進委員会を作り、役所からも認知してもらい、委員会の人を引き出して来るような、權威を持った形ができないかと思っています。

川上 私が、市と県の外郭団体の神戸青年セミナーで働きながら学ぶ人たちを見て感じたことは、今選んだ人達が一同に集まることは無理ですが、グループに分かれて会合を持つてほしいと思います。

神戸のイメージアップをする為に何をすべきかを考え、イメージの神戸が出来たら、人が集まり育つてゆくように思います。

遊びからでもいいのです。出会いが大切ですから。話し合いながら研鑽し合い、業界の中で仲が良いが互いに競い合う、そんなればいいのです。街に対して関心を持つようになるのです。今の世の中、消費税はいやだとか、国や市や地域に対してはエゴを優先させたりしますが、こんな街を私たちはつくってゆくのだと、皆が自覚を持つてようなセミナーを開いてゆけば、と思います。

（於 ブラン・ド・ブラン）

FASHION CITY KOBE

国際都市神戸からのファッションメッセージ。

スカイブルーの 風と共に

ハイセンスな街、神戸に
生まれ育った竹馬産業は今、
トータルファッション企業として
大きく飛躍しようとしています。

竹馬産業 株式会社

代表取締役社長 宇野 修

神戸市中央区元町通3-2-18

TEL (078) 333-9101 (代表)



宇野 修

神戸のセンス高め 専門店の個性発揮

K F Kは、神戸らしさを大切に
した神戸の婦人子供服専門店のグ
ループです。'90年代は、より個性
化をめざしグローバルな店づくりを

K. F. K.

会長 坂野 通夫

神戸市中央区西町36 株式会社ファミリア内

TEL (078) 321-0345



坂野 通夫

こだわりを持った 本店ビルの完成へ

「わがままスペース」と名付けた
本店ビルがいよいよ完成します。
ファッションにも生き方にも、お
客様にこだわってほしいですね。

マ ミ ー 株式会社

代表取締役社長 東條 隆裕

〒651 神戸市中央区磯辺通2-1-1

TEL (078) 242-3811



東條 隆裕

一期一会の精神で '90年代も前進

洗練され時流にのったカラフルさ
が、“神戸ファッション”です。
'90年代も一期一会の精神で心の経
営を続けて参りたいと存じます。

株式会社 ベ ニ ヤ

代表取締役 松谷富士男

〒650 神戸市中央区三宮町1-10-1 交通センタービル6F

TEL (078) 332-3155



松谷富士男



石原 暁美／アトリエ・アン・アケミ

‘90年代はしなやかに、したたかに、美しく。時代が求める上質のクオリティに、着る人の個性とKOBEの独自性をプラスして。



荒木千鶴子／樹ワールドスチュエーション

社会の自然保護の流れにあわせて、より素材感が重視される。「見せる」から「着心地」の時代になるのでは。

Designer

'90 Kobe

Fashion 特集2



今井 絵美／オールスタイル商品企画部

神戸はファッションには保守的というイメージがありますが、流行も自分流に取り入れて楽しんでも良いのでは……。



井上真由美／オールスタイル商品企画部

美しい街並みを背景に活気あふれる人達が集まって生まれてくる“動的なファッション”に期待したい。



井之上寿代／樹バンボーレ企画室

常に一定のグレード感を保ちながら提案し、表現し続けていくファッション。それは一輪のバラのごとく……。



市野木江充子／市野木ニッティングスタジオ

次への可能性を求めて山と海とに囲まれた神戸から全国に向けてメッセージを放ちたい。大いなるものに守られながら。

100人 ’90年代の神戸ファッションを 創るクリエイター（婦人服の部）



宇敷 道子／樹ジャヴァ

上品さ、本物志向をよりナチュラルに、シンプルに、自然に表現していく時代になるのではないのでしょうか。



植野 年子／樹ジュネス

‘90年代は都市と共にカラー（都市、イメージ、企業等）を前面に押し出し、それぞれの特色がより濃くなると思います。



岩田 明／樹アバンヴォートル事業部

多くの女性にお洒落でエレガントなムードを味わってもらえるような洋服作りをしていきたいと考えています。



岩城 員子／樹大丸神戸店ジバンシィサロン

個性化、多様化、国際化、自分作りを大切にする‘90年代。「ものに心を」托し、感性と雰囲気を作る真のプロの時代。

★各部門別に五十音順。
★顔写真の下は、氏名・肩書き・‘90年代の神戸ファッションについてのコメントの順



川崎千恵子／デザインル
ーム SIRÈNE

情報は多ければ多いほど個性化するものです。感性を巧くバランスさせた「もっと自由」な方向に向うでしょう。



金治真理子／関大丸神戸
店ジバンシィサロン

'90年代の神戸ファッションは、誰にでもなく、こだわりの自己表現。たとえてみれば、星々の輝く銀河のよう。



岡原加代子／マドモアゼ
ルK

'90ナチュラル志向は、明快、爽快、軽快の3拍子で「神戸らしさ」を西のファッション基地として、アピールさせたい。



岡井 直美／関キヤパ企
画部

今まで数々のファッションがめまぐるしく変わってきた中、'90年代は多様なアイテムがいろんな形で発展していく年。



大西 節子／関大丸神戸
店ジバンシィサロン

今、岐路に立つ。原点に戻って基礎を固め、市民の豊かなカルチャーこそスバシイファッションを生み出す。



太田 圭彦／関サン・ク
レア

本物の美しさを知りつくした女性に相応しい街。INTERNATIONAL KOBE の鼓動が私にデザインさせる。



西條 幹男／服飾ミロー

ボーダーレス（国境のない）時代。個性を大事にし、自然と優雅融合を支える神戸発の手飾りファッションでありたい。



小林萬里子／サロン萬里

私が常にデザインしてきたのは、自分の魅力を自覚し流出しようとする女性をいかにエレガントに見せるか、にあった。



近衛 行麿／関大関商事
ファッション事業部

明るいポップな時代。カラフルで心もリッチに音楽を感じるような服を創っていきたくて考えています。



小角 陽子／関アネック
ス

上品さをベースにした自分なりの着こなし方を提案していきたい。それとファッションタウンの良さも広まってほしい。



栗山 早苗／モード・ア
トリエ・サナエ

気品と風格、本物と正統が実によく似合う街神戸。楽しく着る／ことをプロセスに。百人百色。今、個性が光る時代へ。



北原紀美夫／モード・ミ
レヌ

ブランド商品の現物輸入、ライセンス商品も増加し続けているが、神戸のセンスと感性を表わした商品を作りたい。



武田 昭子／ラ・メール
かもめ

神戸ファッションはどんな流れの中でも、神戸の街の香りと色が有る。多様化の中で益々神戸らしさがひきたつでしょう。



鈴木なつめ／関ワールド
ビルダジュール部

港は世界のいろんなところに繋がっている。ファッションも開放的になれば、色とりどりの個性が生まれるのでは。



下村 典夫／関カルティ
ペイツ

神戸はエレガントな服とカジュアルな服とが共存し、ライフスタイルを提案できる都市。さらに鮮やかなカラーを作ろう。



下村 和子／ブティック
装苑

海と山との自然に囲まれた神戸は、まさにエコロジーファッション都市。その名に恥じないように張り切って参ります。



篠原 順子／服飾デザイ
ナー

エコロジーがテーマとなるだろう。環境問題も含め、自然と調和することを意識してファッションでアピールしたい。



佐藤 良子／アント&ア
ポロ

'90年代は従来のタウン着に加えて、リゾートシーンやレジャーシーンを意識した提案への注目度が高まってくるでしょう。



中島 嘉子/あとりえヨシコ

着る側から求められる個性的なファッションを作るべきです。どんな時流にも対応出来る基礎知識・感覚を養いましょう。



長井 弘子/瀬三越オートクチュールサロン

やさしさの時代と言われています。街、自然、性別、世代を超えた人々との触れ合いの感性ある生活がファッション。



辻内 恵子/オールスタイル商品企画部

空と港と山。四季の自然の恵みの中で、生活パターンを多様化した着こなし上手の女性が増えるでしょうね。



張 恵美/エミ洋装店

目先の流行に左右されず個性豊かな伝統ある神戸ファッションが、尚新で洗練され世界へ伸びていく事と思います。



丹野最世子/ブティック魔女

'90リゾートファッションの似合う街神戸、さりげない着こなしに漂う、リッチで洗練されたニュージャスル感覚。



田仲留美子/神戸ファッション専門学校

ステータスのある街「神戸」。より神戸発信のファッションエネルギーパワーアップのために、自信のある仕事をしたい。



那須 久子/アトリエナス

ライフスタイルが向上している今、TPOに合ったファッションを…。お客様のために、お手伝いしたいと思います。



中村 美幸/関ケティ企画課主任

神戸にこだわって神戸でしか買えないものを作りたい。また良い意味での保守的な神戸のイメージを持ち続けていたい。



中村 一夫/関イヅムコントロール室

'90年代はあらゆる部分で飛躍するだろう。そして世界で通用する企業、ブランド、デザイナーが神戸から発進されるだろう。



中野 妙子/関そごう神戸店オーダーサロン

多様化するファッションの中で自然なシルエット。その人の個性が出るようにいつも心掛けています。



中西 省伍/関サロン・デ・モード中西

神戸の持つモダンイズムをシャープにアトラクティブに磨き上げ、毎日の生活に融合させることが'90年代に求められよう。



中司 真実/関アパンスデファン事業部

明るさ、優しさ、素直、自由、そんな予感がする'90年代神戸。自然と共存し、自然を見るのではなく体で感じる方向へ。



前川富紀子/ニッターズスペース MAEKAWA

世界中の人の知っている街、神戸/新しいもの好きのこの街から、ドラマ性のあるファッションが世界に旅立っていく。



堀本 恵子/ラ・モード

新しさを取り入れ、それに今までのものを上手くミックスさせて、神戸特有の新鮮で質沢なイメージを創り続けます。



二見あい子/オールスタイル商品企画部

しなやかに、美しく、輝く女性がピッタリの街神戸には、こざっぱりした物が良い様に思います。



藤本ハルミ/クチュール・マ・ガレット

どうしてこも神戸を愛するの、ファッションの仕事は天職と思える私は、ベッピンの街神戸に生まれて幸せである。



藤井美智子/モードメイドミチコ

洋服は常に動きの中に美を求められます。躍動する神戸の街に合うラインを求め、こだわって服を作っていきます。



畑田 浩作/関エスターニュートン

若い世代の女性には高級ブランドが人気あるようですが、個性の点では疑問です。神戸らしい特徴のある商品展開を。



森 亨子／クリエイションスタジオ・モリ

‘90年代は生活変革の進む時代。付加価値のある物を生活のベースに合わせて、神戸らしい夢のある服創りをしていきたい。



目谷佐智江／関バンボレ企画室

一人一人の個性が服によって際立たされる。エキゾチックな神戸の香りが感じられるような服。それが神戸ファッション。



村岡 圭／服飾デザイナー

テラー発祥の地「神戸」の原点に戻り、流行におぼれることなくステキなクリエイターでありたいと思っています。



水口 美穂／関ボンニールランジェリー

神戸という恵まれた環境の中で、それを生かした異和感のない色と形の調和のとれた独自のファッションを育ててほしい。



真殿恵津子／ブティックエツ

‘90年代を予感させるエコロジックは神戸の街とのこだわりファッションの発進基地として、大きなキープポイントでしょう。



松永 千春／関ワールドエアートク部

服は個性の一部になり生き方が大切になる。神戸エレガンスに色んな要素が溶け合って、センスに磨きがかかる。

Business



米山かおる／モードサロンかおる

タイトな女らしいシルエットとゆれ動く布の遊び。静と動との組合せに輝く美しい色彩がハーモニーし、各人が装う。



山名 日和／関アネックス

品の良さ、女性らしい清楚な服を作り続けていきたい。あくまでシンプルにナチュラルに良い環境の下で。



山田富紗子／関ウインザー

生き生きと生活する神戸の女性たちにシンプルでナチュラル、洒落た色合いとエレガンスなラインこそ‘90年代のテーマ。



蘇下 鈴子／ベル洋装店

神戸にデザイナーは多いが、ボタンナーが少ないように思います。機能性とデザインのある服を作っていきたいものです。



柿本 雅司／トライワン株式会社取締役社長

ファッションとは「思い込み」と「こだわり」。百年の歴史を持つ「神戸らしさ」により一層こだわって……。



小田 健義／関イズム代表取締役社長

豊かな時代に向い、更にいいものを創って参ります。同時に生活者の生き生きとしたライフスタイルの提案を続けます。



大村 宏子／南大村商事代表取締役会長

エレガントと素材の追求、世界に神戸ファッションを羽ばたかそう。‘90年代は各々の感性でオシャレが出来る時代だ。



井本 正章／関パニティ代表取締役社長

個々の自由なライフスタイルに取り入れたファッションを楽しむ時代へ。又、そのニーズにあった流れへとの変化期。



飯田 光／関まさ営業担当取締役

‘90年代は新人類と言われる人も大人のファッションに入ってこられる年代です。新しい人の神戸ファッションが楽しみです。



荒津 治／関神港ドレス営業部マネージャー

単に素材が上質である、デザインに優れている、と言うだけでなく、伝統や熟練技術を理解できるユーザーが増えるだろう。



杉浦 雅明／㈱スギヤ代表取締役社長

ゆとりのある遊び心を表現出来る店創りを完成させ、よりグレードの高いアダルトショップを目指して一直線。



白神 賢造／ブティックサンジェル代表取締役

お客様が満足して、長く愛してもらえる服を提供していきたい。お客様の喜びは私にとっても大きな喜びです。



清水 善之／マドンナグループ代表取締役

国際都市、世界のファッション基地として大きく期くには神戸空港の実現なくして語れない。官民一体の推進努力を。



笹原 勝彦／㈱ヘンスフォース代表取締役社長

現状から見ると、行政がらみのプロジェクトに比べ、商圏に密着した小売店弱体化が加速しているのが気掛かり。



崔 康来／ブティック・コーシン店長

はっきりとした「コンセプト」で取扱商品を選び込み、お店の個性をはっきりと表現することが大切。



岸野 恭久／㈱シンワ事務取締役

トレンド氾濫の時代の波に終止符がうたれ、パーソナルが形成されることがより一層明確になってくるだろう。



林 宏子／㈱シャルレ取締役副社長

神戸の街の雰囲気壊さないポリシーのあるおしゃれを続けて、神戸の誇りを高めたい。その出来るのが神戸っ子です。



中田 泰次／共栄繊維㈱代表取締役社長

神戸には素晴らしい人材が多い。これからもきっとファッション産業都市神戸として、大きな利益を生み出すだろう。



東條 隆裕／マミー㈱代表取締役社長

これからの小売業はフィルターです。そのフィルターを通して同じ価値観のものを提供するのがオリジナリティです。



調所 泰代／㈱神戸キラバン商品企画部

神戸ファッションの明るいカラーとソフトで女らしいマインドは、今秋のフェミニン傾向と相まってより市場性を発揮。



辻 伸一／㈱創友社取締役次長

シックエレガンスとスポーティングエレガンスの流れが目まれ、高品質化すると同時に個性がより顕著に求められる。



芹澤 豊成／㈱ブティックセリザワ常務取締役

ファッションは益々多様化し、地域性による共通項は減少し、個々のブランドやショップのテイストがより明確になる。



行吉 誠之／行吉学園副理事長

90年代はコンピューターデザイン（CAD）が主流になると思います。神戸ファッション業界がその先駆けとなるべく頑張らねばなりません。



山本 秀一／㈱ヴァレン代表取締役

世界の中で「神戸」の位置付けを確立させたい。東京への依存から脱皮するために大きなイベントが必要だろう。



松谷 年郎／㈱ベニヤ事務取締役

スペシャリストがまだ揃っていないと思う。旧態以前の保守的な体質を徐々にでも改善し、若手から盛り上げていきたい。



松岡 賢蔵／㈱パール代表取締役

情報発信基地として長期展望に立った位置づけを明確にし、多面での神戸らしさを指向する発想が大切だと思う。



前川 治美／㈱ぎやんるんぬ代表取締役室長

90年代にいかにい仕事をするかは、心地良い住まいや環境を作ることが大きなウエイトを持つと思います。



不破久美子／ブティックアシダ神戸三宮店

シンプルなのに華やかでオーソドックスなのに新しい。そんな神戸に相応しいファッションが頑固に生き続けるでしょう。



木村 弘子／塩原学園和洋裁専門学校

美しさは知性の輝きと共にあるもの。没個性と言われないように、若人の個性で国際都市女性の彩りを。



有賀由規男／㈱アフォーダ代表取締役社長

より高感度、より高品質をという求める人々のウェンツを的確にとらえる豊かな創造性、感性が益々必要とされるだろう。



有賀 靖治／㈱有賀洋裁研究所代表取締役

生販が一体になって、素材を大切に、パターンでは表現できない技術の研究で、モダリスト不在をカバーするべき。

Master



和佐 尚代／ボトム専移取締役

気分がカジュアル——'90年代のカジュアル志向は、自分の為に気分よく快適で遊び心のある楽しいコーディネート感覚。



福富美代子／神戸ファッション専門学校

ファッションは時代の求める*人の存るべき姿*に投影される。愛・自然・洗練といったキーワードには神戸こそ相応しい。



辻村 定枝／辻村学園服飾専門学校校長

古いものと新しいもの、保守と革新、東洋文化と西洋文化入り乱れ、共存する中から調和のとれたファッションが主流に。



谷口富美代／神戸ファッション専門学校

'90年代のキーワードは「エクセプションネル＝贅沢なもの」。良いものをゆっくり見つめ、満足できるものを大切にしたい。



多田 愛実／神戸芸術工科大学

現代はあらゆるものがファッション化の波に洗われている。'90年代は資源問題など配慮した、地球に優しい物作りとなる。



鈴木 章子／神戸文化短期大学教授

エキゾチック神戸からファッション神戸、更に国際ファッション基地へと変容していく。その一端に関わり仕事をしたい。



米谷 玲子／神戸服装専門学校校長

自然回帰の流れに沿って、コウベモダンの香り豊かな優しく知的な女性像を描くファッションを期待します。



神田 隆司／㈱バンボーレ常務取締役

カジュアルエレガンスに向けての細かいシーンの設定を。神戸らしさの特長であるきれいな色にはこだわりたい。



大島 智恵／ベニー毛皮店企画室長

神戸っ子は賢いから今年にはひたすら強さを隠して優しく優しく。女の魅力を照れることなくアピールしよう。



比辺 長康／オールスタイル㈱取締役商品企画部長

感性と完成度を共に持ち合わせたもの作りこそ、神戸ファッションと言えるでしょう。それに*さり気なさ*。

Creator



八幡 舒子／八幡服装学園校長

神戸のファッションは消費型だが、'90年代は生産都市を目指すべき。神戸が生んだ若きデザイナーの活躍が望まれます。



工藤 純子／販売促進プロデューサー

ファッション流行にとらわれない、最低10年着れる30代の働く女の着こなしを神戸ファッションメーカーに期待する。



岡田 利彦／映画プランナー 企画部

普遍的発想ではなく、質、機能に優れ、naturalなものをベースに洗練されたデザイン性を持つものが'90年らしいのでは。

Producer



高野 多美／南大丸神戸店 コーディネーター

神戸は常に新しいメッセージを送り続ける情報基地であるべきです。オシャレ上手な神戸人にふさわしく。



堺 幸子／南甲南ドレス工場長

動くたびにきれいなラインの出るフレアーのスカートやドレス。センスある大人の女性の服が、'90年代神戸ファッション。

また婦人服といっても、会社を経営する人、デザインする人、教える人、様々な取り組みがあります。そこで今回は5つの分野に分けました。①デザイナー。文字通り洋服をデザインする人で、中には自らコー

でも、そのジャンルは多種多様です。今回は特に「婦人服」を扱っている方々に限定しました。次の機会には、紳士服、ベビー服、カバン、靴等の100人を発表したいと考えています。

●選考発表を終えて
7人の座談会出席者(福富芳美、川上勉、松谷富士男、芹澤豊男、藤本ハルミ、荒津正美、中西省伍の各氏)による選考から決定までの経過は「特集1」で。また決定した100人の紹介は「特集2」をそれぞれご覧下さい。



福野 輝郎／フクノアンドアソシエイツ代表

国際都市としての個々のヴァリアを失ってはならない。これへの戦略と洗練が、これからの神戸の魅力を占うだろう。



シャリーーンW・ダイヤ
シャリーーンオフィス

インターナショナルでコスモポリタンの街を繁栄させた文化的なものを感じさせるファッションであって欲しい。

ディネートしたり、ブティックを開いている人も多々見受けられます。(56人) ②ビジネス 婦人服メーカーの経営者、店長等を務めている人。新旧交代もあつてか若手の名前がかなり挙っています。(25人) ③マスター 洋服を作る側と言うより作る人間を育てる側と言えるでしょう。服装学校の先生方が中心です。(10人) ④クリエイター デザイナーとは少し異なり、企画面からファッション界をサポートする人を指します。(5人) ⑤プロデューサー ファッション界全体を創造していく人で、今後はこの分野の需要も大きくなるのではないのでしょうか。(4人) コメントでは「'90年代の神戸ファッション」についての考えをお伺いしました。何分にもスペースが限られていましたので、一部省略、割愛させて頂きました。それぞれの立場からのファッションへの思い入れ、神戸への愛着、そして'90年代への期待が文章から読み取れることと思います。今回選ばれた100人の皆さんの根底にあるのはやはり「ファッションが好き」この一語に尽きようです。最後にご協力頂いた皆様方に厚く御礼申し上げます。



今、女性は、いろいろな生活場面をもって
楽しんでいる。そんな人のためにポトフは
多様なシーンを用意しました。

POTOFU CO.,

ポトフ株式会社

神戸市中央区北野町 3 丁目 2-4

アニルドマンション 2 F

TEL 078・291・0880 FAX 078・291・0856

bel à bel - la

31^{m/m}
Monsieur et Madame Passé le Trente

3G

CEST UNE COLLECTION CREEE A KORE

garçonne

GARÇONNE CO., LTD.

6-1-16 NAKAYAMATE-DORI, CHUOH-KU, KOBE 650 JAPAN, phone : 078-382-0214
4-20-3 MINAMIAOYAMA, MINATO-KU, TOKYO 107 JAPAN, phone : 03-475-5107